



とことん うきき かのうせい つながり

Vol.03
2022.3

全国学力・学習状況調査 「どう活用していますか??」

児童生徒の実態に応じた授業改善

POINT① 校内研修1：実施直後の自校の実態分析

○国語、算数・数学等の年度当初の実態把握

- 児童生徒の解答の写しを取り、職員研修で仮採点を行い、年度当初に実態を把握する。

○児童生徒質問紙の重点設問に関する実態把握

- 児童生徒の学習への意識や授業への取組状況、家庭学習の状況等を把握する。

実施 校内研修で早期の実態把握 →職員全員で当事者意識を！

約3か月

結果 受身ではない積極的な活用

【学力向上の取組】
皆さんの学校では児童生徒の学力向上に向けてどのような取組を行っていますか？
教科等を設定し授業研究会を行ったり、常時活動を工夫したりと様々な取組を工夫されていることと思います。
では、毎年実施される全国学力・学習状況調査はどのように活用されているでしょうか？

POINT② 校内研修2：調査問題のねらいの把握と「授業づくり」の検討

○調査問題のねらいを把握

- 仮採点により、調査問題のねらいや求められている資質・能力を把握する。

○調査問題のねらいをもとに「授業づくり」を検討

- これまでの授業の振り返りを行い、「どのような授業づくりを行っていけばよいか」を検討する。

実施：R3 中学校国語④ より

課題：相手や場に応じた適切な敬語の使い方

ひやく → ありがとう、お礼等 敬語の増強 → 敬語講座

実生活の場面を想定した言語活動を位置付けた学習

【千葉県は全国学力・学習状況調査の活用率が低い】
11月に実施した学力向上交流会のアンケートでは、「分析はするが日頃の指導に役立っていない」と回答した学校が全体の約半数でした。

POINT③ 校内研修3：調査問題を生かした授業実践

○『思考し、表現する力』を高める授業実践

- 実践モデルプログラムを取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- 調査問題を生かした研究授業を行う。
- 授業とリンクした「主体的に取り組める家庭学習」の在り方を検討する。

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム

新たな疑問をもつ → 疑問をもつ
 学んだことを授業に身に付ける → まとめあげる
 学んだことをまとめる → 思い出す
 思考の過程を振り返る → 疑問を明確にする
 新たな問いに気付く → 広げ深める
 友達と互いに学び合う → 自分で取り組む
 自分の考えを伝える → 解決の見通しをもつ
 思いや考えを伝え合う → 情報を収集し調べ、自分の考えを形成する
 思いや考えを伝え合う → 思いや考えを伝え合う

【全国学力・学習状況調査を活用した授業改善】
全国学力・学習状況調査の結果のみに着目するのではなく、児童生徒の実態に応じた授業改善のために役立てていただけるよう、左のような校内研修プラン例を提案しています。
ぜひ、ご活用ください。

未来を創るU10

10年経験未満の頑張る先生を紹介します



令和2・3年度 NIE 実践指定校 流山市立八木南小学校 茂古沼 教諭

八木南小学校では、「豊かな表現を生かし、情報のインプットから思いや考えのアウトプットができる児童の育成」を目指して NIE の研究が進められています。
NIE には「新聞のことを学ぶ」「新聞を使って学ぶ」「新聞を作って学ぶ」という三つの要素があります。茂古沼先生は、算数の面積の求め方を考える場面で、「新聞記事を使って学ぶ」学習を行いました。素材の工夫により、「取り組みたい」という児童の意欲喚起につながり、様々な解決方法を見つけ出すと主体的に学習に取り組む姿が見られました。

